

橘町の見どころ

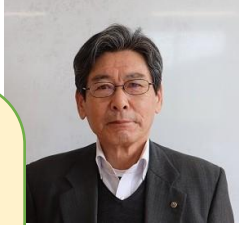
まちの歴史シリーズ ②⑦

橘町HP <https://tachibana-net.jp> **歴史・史跡** クリック

発行：橘町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和6年9月1日
責任者：國平 安治
原稿作：宮下 正博
事務局：橘公民館 22-3884

今月号の案内者は

潮見区長 **吉永 秀徳さん**



★印番号の解説

★①菊池文教の租 渋江紫陽

なして菊池市で渋江さんが有名かと？



渋江一族のお墓

先月号は、潮見城が落城して渋江公親の子供公師は大村を頼り、弟公重は戦死した話やった。今回は、**その後の渋江一族がどうなったか**、タツパ君、説明バお願いすっパイ



兄の公師さん、**弟公重さん**の子どもさんについて解説するね。

●弟公重さんの末裔に「**菊池紫陽**」と言う人がいて、熊本県菊池市では、菊池文教の租★①として大事にされているよ。公重は潮見城で戦死したけど子ども★②が山鹿で育ったんだ。

●菊池の渋江氏は、橘 渋江氏に伝わっていた**天地元水神**を祀る許可をもらいに来て、今でも菊池市内で祀られ★③ているよ。

●兄**公師**さんは、落城後再び肥後山鹿の赤星**重行**★④を頼って暮らしていたけど、後藤**貴明**の要請を受け、再び旧領へ戻り、原直景★⑤と共に塩田の**靱岳城**★⑥を守るんだよ。

●でも、後藤氏が龍造寺の配下になって1577年に平戸の松浦氏らとともに大村を攻めた時、大村氏と松浦氏の仲介をとった。

●勝手に仲介したと**貴明**に色々疑われて結局は大村を頼っていったんだ★⑥。

●その後、秀吉の九州征伐などがあるけど、大村氏の客将として波佐見を守って生涯を終え★⑦、その子孫は大村や波佐見に残っているよ。

菊池市のHPでは「紫陽は30歳の時に、藩校『時習館』より6年も早く、私塾『集玄亭』を創立し、45年間に300人以上がここで学んだ。藩の学者たちは紫陽を訪ねてきて、『城北の隠君子』と呼んで大変尊敬していた。」と書かれているよ。「あの紫陽先生が言うのだから」と河童伝説も信じられたらしいね。現地看板では歴代の渋江一門を紹介しているよ。(下写真は現地看板)

近世肥後菊池文教の祖 渋江家一門の墓

(渋江家一門のお墓はこの上にあります)

事跡

初代 公成 天地元水神の神職として西迫間に居住

三代 公実 正徳二年(七一) 隈府中から寄付を集め菊池氏の菩提寺である東福寺の石段と石垣を造りました。

五代 紫陽 (公豊) 私塾「集玄亭」を開き菊池文教の祖として尊敬されました。

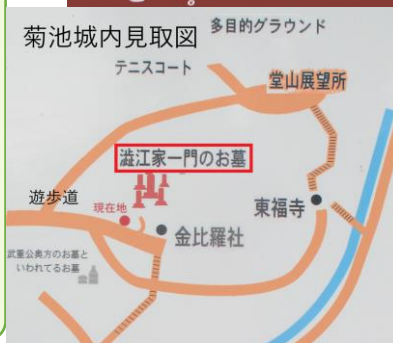
松石と共に菊池一族の顕彰には特に心を尽し、宗傳次と共に菊池武光公神道碑を建立しました。

六代 松石 (公正) 私塾「星聚堂」を開き立派な門弟を育て、菊池武重の神道碑を建立し、菊池風土記他多数の著書を著しました。

七代 洗滌 (公豪) 龍淵(公隆)と共に父の跡を継ぎ子弟の教育に尽くしました。

八代 晩香 巨村に私塾「遜子堂」を開き一五〇名余の門弟を教育しました。

九代 龍伏 父と共に門弟の教育に当たられ、若くして県国会の議員として郷土のため活動しました。



渋江氏墓地は、菊池城の一角にあり、すぐそばに金毘羅さんがあります。左が見取り図



★②公重（弟）の子ども

公重さんは潮見で戦死したろうもん

若木日鼓城が落城した後、公師・公重は山鹿で育ったんだ。この時、公重には合志中務の娘との間に公成という子がいた。菊池渋江氏の初代として祀られているよ。それにしても公業、公勢、公成と「キミナリ」さんばっかいダネ。（表ページ看板も参照）

★③天地元水神社

菊池の天地元水神社と潮見神社と関係のなんじゃいあーと？



菊池の天地元水神社は、菊池初代公成（戦死した公重の子ども）が、渋江氏に伝わっていた氏神を継いでできた。水難よけのお札を出しているよ。右は地震で新築移転した神社



菊池天地元水神社

赤星さんて？

★④赤星重行



菊池一族の一人。元寇の頃、菊池第10代当主武房の弟が有隆。彼が初代赤星名乗り、重行は11代赤星氏当主だよ。

菊池氏とは色々関係があって、5代当主の墓が潮見にあるよ。それはまた別の機会にネ。

★⑤原直景と靱岳城

ここから兄公師の話たいね。塩田の靱岳城主原直景さんてだれ？城はどこにあーと？

靱岳城は塩田の五町田にあった（右図）。その城主が直景。彼は潮見城が落ちてほどなく、貴明に攻められて貴明の配下になるんだ。

その後の動きを箇条書きするね

- 兄公師は貴明に呼び戻され原直景と靱岳城を守り、直景の妹をもらう
- 「惟明の乱」で後藤が龍造寺の配下に
- 龍造寺、平戸松浦氏と共に大村攻め
- その最中に松浦氏と大村氏を仲介
- その後、公師・直景ともに貴明に疑われて、直景は龍造寺隆信を頼る。
- 直景はその後、島原で戦死。彼は北方の曹洞宗紫雲山永林寺の開基である。（永林寺：<https://www.cableone.ne.jp/>）
- 公師は大村純忠を頼り、波佐見を守る
- 純忠は隆信の攻めに屈し、人質を出す
- 公師は客将として波佐見を守りながらお家復興を目論んでいた

公師、大村を頼る

なし、大村氏を頼ったと？



貴明は大村氏嫡男だったので、ずっと大村を狙っていた。だから、貴明と敵対する大村氏に近づいた…カモネ。

★⑦公師、波佐見で生涯を終える

秀吉が九州征伐後、九州武士の領地配分を決めた時、渋江氏分の復興がなかったので、仕方なく大村氏の客将として波佐見を守ることになったんだ。



今号は中島信夫著「橋町の歴史」を基に作成しました。戦国時代を終わります。

今回ご紹介した時代は『戦国時代』でした